

# まちづくりフォーラム及び市民説明会のアンケート結果について

## (1) 「まちづくりフォーラム～交流拠点施設の活かし方～」の開催概要

### ア 開催概要

- 日時:平成 30 年 1 月 14 日(日)14 時 00 分～16 時 00 分
- 場所:長崎新聞文化ホールアストピア大ホール
- 主催:長崎市
- 共催:長崎 MICE 誘致推進協議会、長崎 MICE 事業者ネットワーク、  
(一社)長崎国際観光コンベンション協会

### イ 内容

- 第 1 部 市長説明(10 分)  
～優先交渉権者(代表企業:九電工)説明(20 分)～
- 第 2 部 パネルディスカッション(60 分)、質疑応答(30 分)

## (2) 「交流拠点施設に関する市民説明会」の開催概要

### ア 開催概要

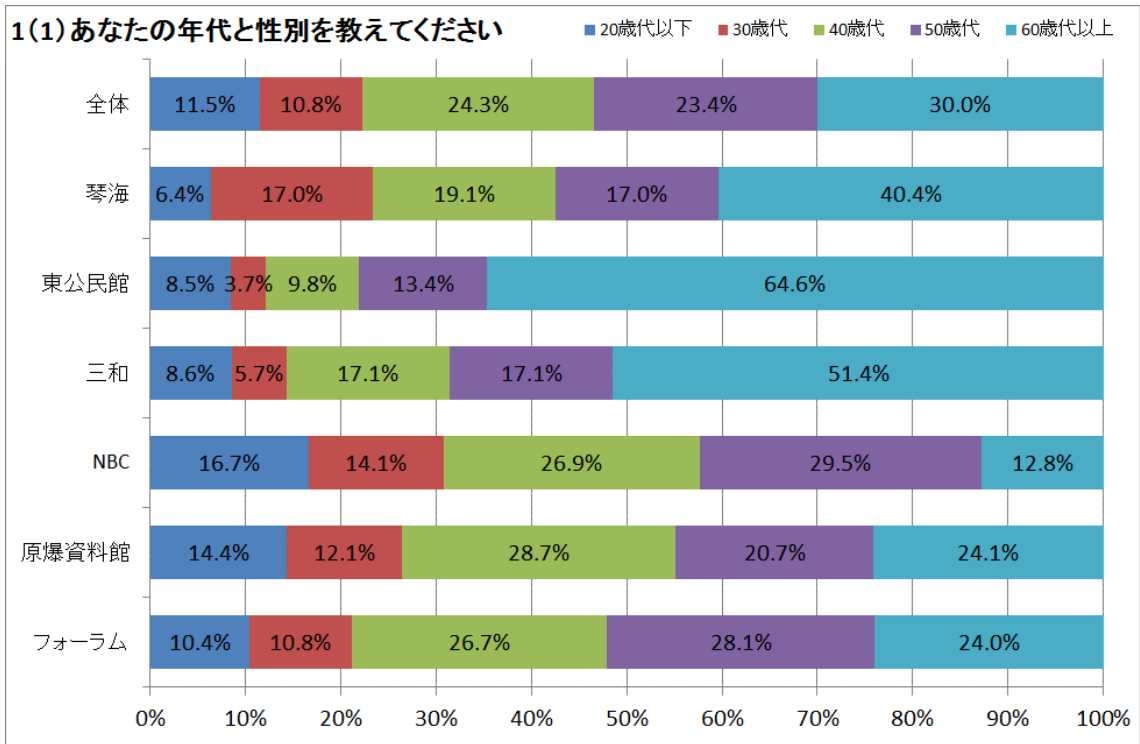
- 日時・場所  
平成 30 年 1 月 27 日(土) 14 時 00 分～15 時 30 分 原爆資料館ホール  
平成 30 年 2 月 3 日(土) 14 時 00 分～15 時 30 分 NBC 別館メディア・ツー  
平成 30 年 2 月 5 日(月) 19 時 00 分～20 時 30 分 三和地域センター  
平成 30 年 2 月 7 日(水) 19 時 00 分～20 時 30 分 東公民館  
平成 30 年 2 月 15 日(木) 19 時 00 分～20 時 30 分 琴海南部文化センター
- 主催:長崎市

### イ 内容

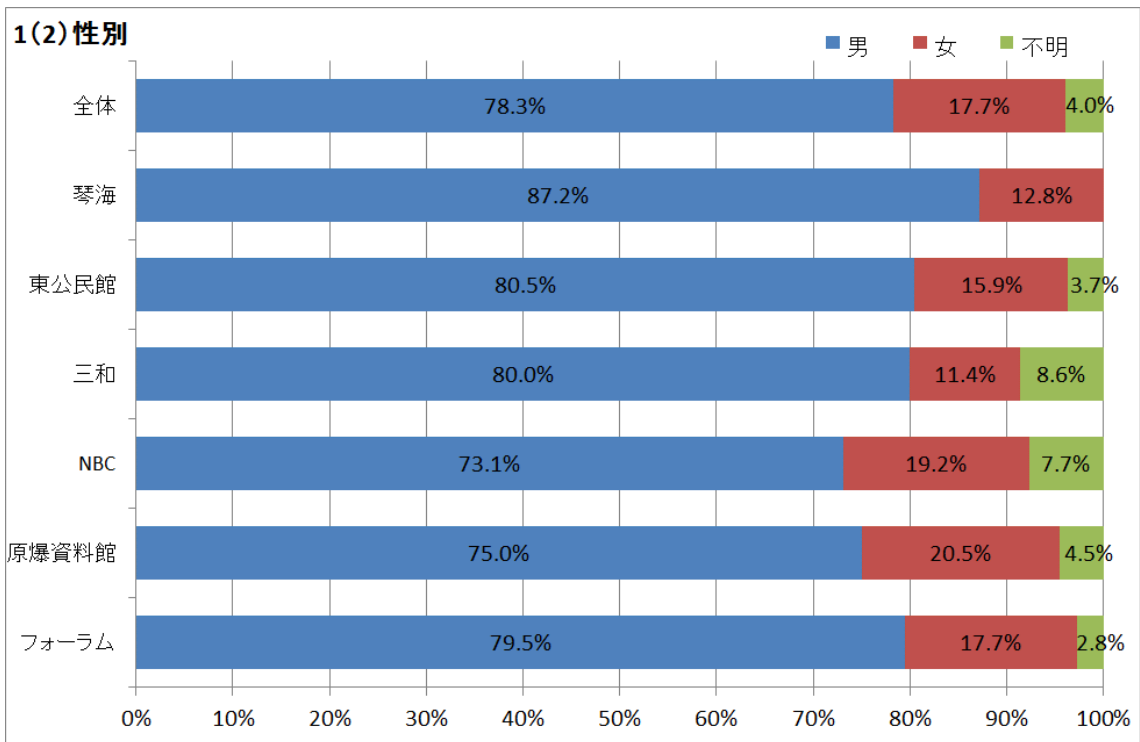
- 市長説明(30 分)、質疑応答(60 分)

## (3) 参加者数及びアンケート集計結果について

日 時	場 所	参加者数(人)	アンケート回収
フォーラム(1 回)			
平成 30 年 1 月 14 日	長崎新聞文化ホール	550	288
市民説明会(5 回)			
平成 30 年 1 月 27 日	原爆資料館ホール	290	176
平成 30 年 2 月 3 日	NBC 別館メディア・ツー	130	78
平成 30 年 2 月 5 日	三和地域センター	44	35
平成 30 年 2 月 7 日	東公民館	120	82
平成 30 年 2 月 15 日	琴海南部文化センター	85	47
合計		1,219	706

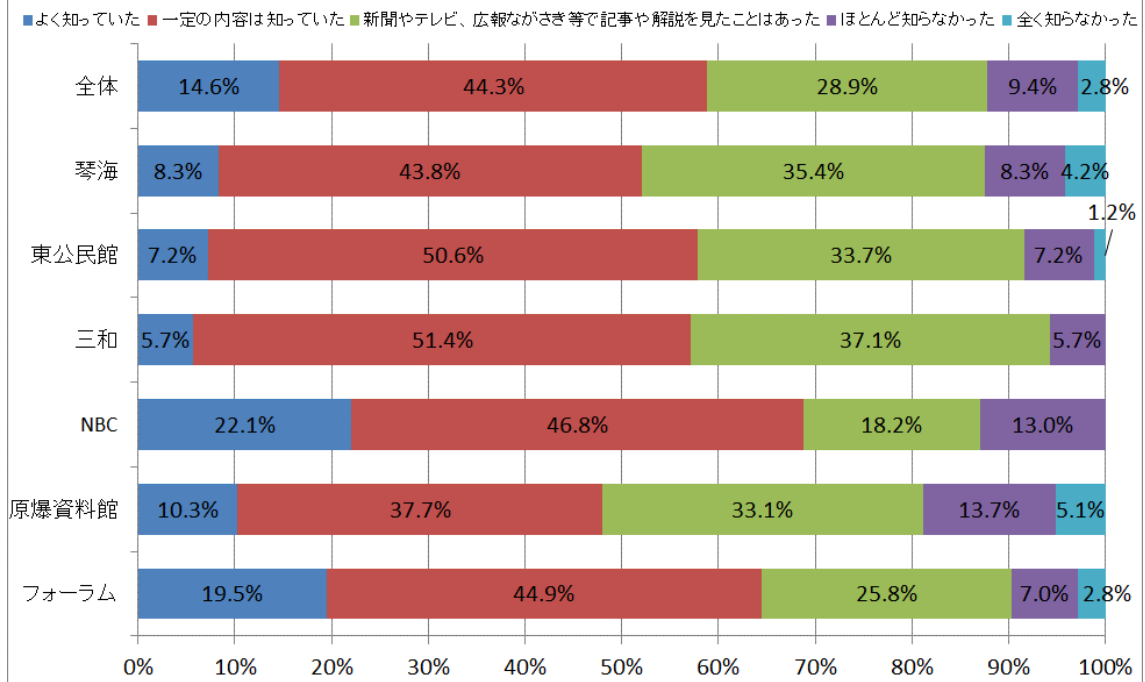


全体では 40 歳代以上が全体の 78%を占める。



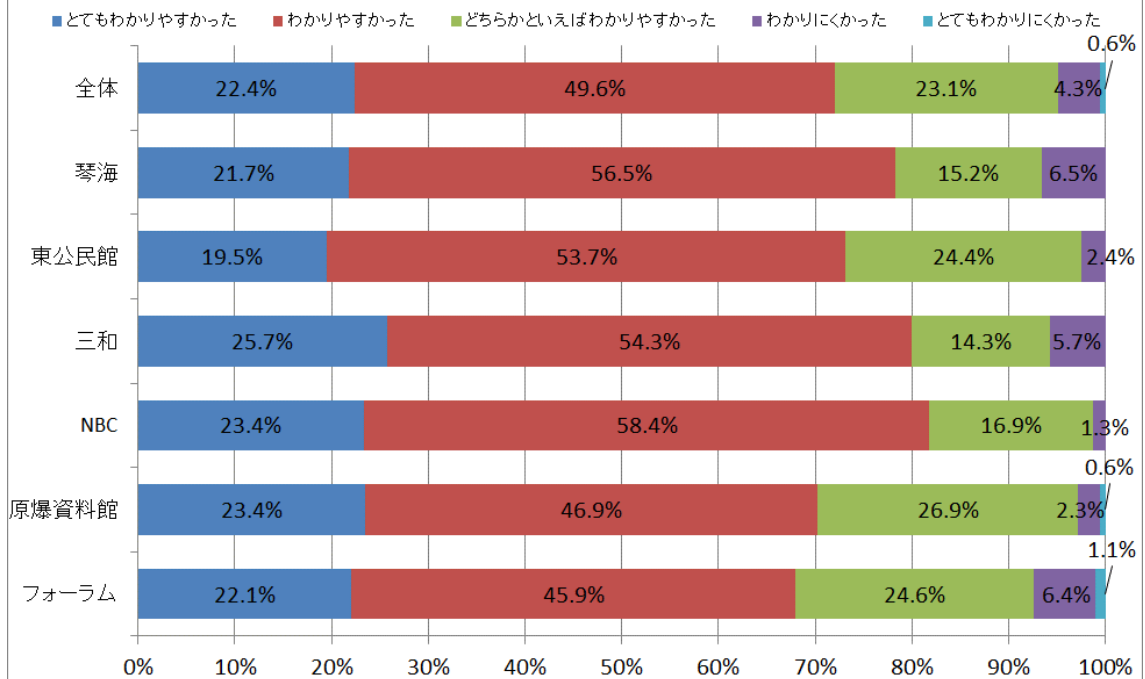
男性の参加率が全体の 78%を占める。

## 2 交流拠点施設をどの程度ご存知でしたか？

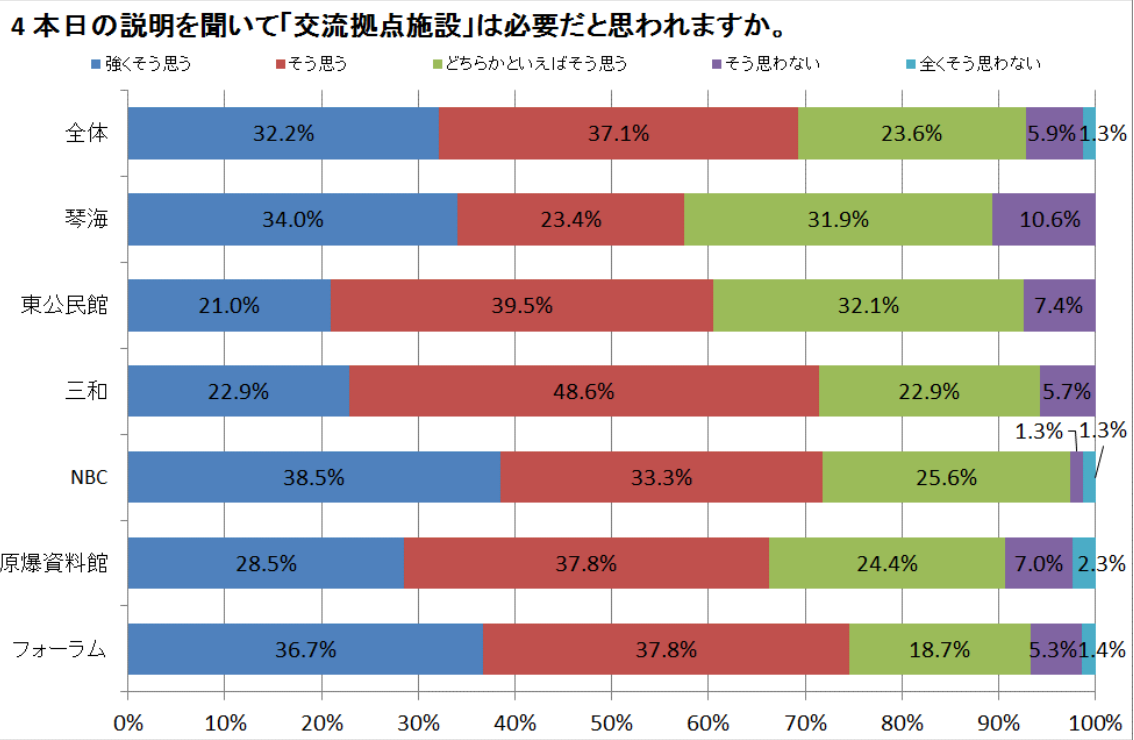


88%の方は、交流拠点施設のことについて知っていた。

## 3 交流拠点施設の説明はわかりやすかったですか

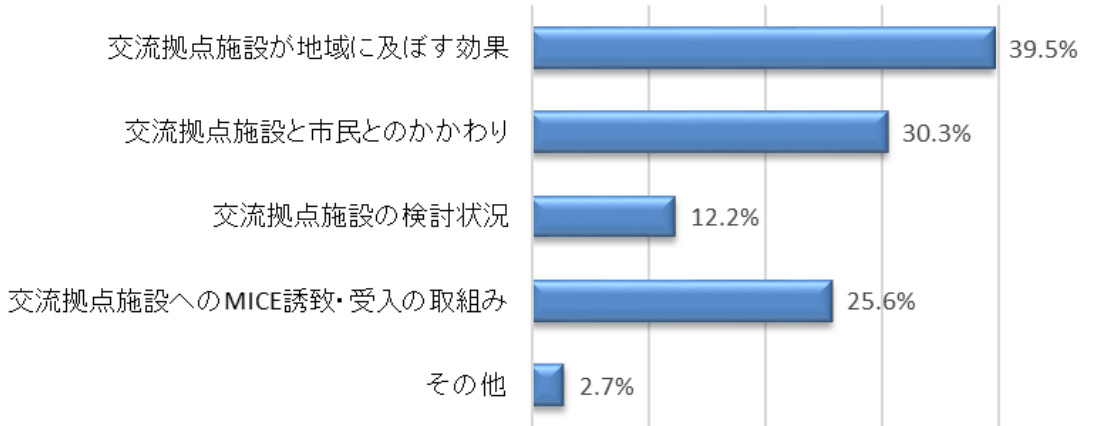


「どちらかといえばわかりやすかった」まで含めると、95%の方がわかりやすかったと回答した。



「どちらかといえばそう思う」まで含めると、93%の方が「交流拠点施設」は必要と回答した。

#### 5 交流拠点施設について今後どのようなことを知りたいですか(複数回答あり・全体)



#### 「その他(自由記載)」の回答内容

市の投資効果／年間開催件数、参加者数目標・ペイライン／施設の活用方針、検討の体制等／カネの流れ／財政的裏付け／経済効果／運営の体制／ビジネスモデル／運営経費／予算と財源／費用対効果／市内企業がしっかり稼げるか、前向きに稼ぐ気持ちがあるか／なぜ競合がなかったのか／ニーズ／利用計画・見込／使用率の算定／根本的な市の景気対策／交通アクセスの検討状況／誘致が計画通りにいかなかった場合の対策／計画が失敗したときの対策／どんな催しができて、どんな催しができないのか／実施可能なイベントの具体的整理と説明／他の市への効果／公会堂にかわる施設はいつできるのか／雇用効果／MICE 投資額の回収が可能かどうか／インパウンドの観光客の利用方法の検討

「交流拠点施設が地域に及ぼす効果」が最も関心が高く、「交流拠点施設と市民とのかかわり」、「交流拠点施設への MICE 誘致・受入の取組み」についても関心が高かった。

## 6 主な質疑と回答内容

Q 交流拠点施設で具体的に何ができるのか。

- 交流拠点施設では、学会や様々な団体の会議をはじめ、講演会、研修会、式典など、様々な催事がこれまで以上に開催できます。特に、イベント・展示ホールでは、これまで長崎でできなかった企業の商品を紹介・販売する展示会のほか、食やファミリー向けのイベント、フリーマーケットなど、様々な用途に活用することができます。

Q 市内にブリックホールなどの施設があるのに新たに施設をつくる必要があるのか。

- 現在、長崎市内には大規模な学会・会議を1か所で受け入れできる施設がありません。大規模な学会・会議などは、ブリックホールなどを中心として複数の会場に分かれて開催されています。しかし、こうした分散開催は会場移動の手間やスタッフの負担が大きくなるので、主催者から敬遠されていて、開催地として選択肢にあげられていない状況にあります。
- また、ブリックホールは会議室や展示施設が不足しており、催事が集中する週末の空きが少ない状況であるとともに、周辺エリアについても、分散会場となる周辺施設の減少や、ホテルの不足などもあることから、多くの人が集まる使いやすい施設をつくる必要があると考えています。

Q 施設を整備することで市民にメリットはあるのか。

- これまで長崎では開催されなかったさまざまなイベントなどに参加したり、楽しんだりする機会が増えるとともに、国内外の最新情報や先端技術などに触れる機会が増え、産業の振興にもつながります。
- また、学会や大会、研修会などが長崎で開催されれば、地元からも多くの方が参加することができ、スキルを高めたり、学ぶ可能性やチャンスが広がります。加えて、市民の皆さんがボランティアやアトラクションのスタッフ、通訳などとして参加することで、人と出会う機会や交流が生まれ様々なネットワークが広がっていきます。

Q 多額の投資をして、市の財政状況は大丈夫か。

- 長崎市の財政収支は、人件費の削減などの様々な収支改善に取り組んだことで、平成 21 年度以降黒字の状態が続いています。収支が改善したことで財政運営を安定的に行うための基金(貯金)は、目標額 100 億円の約 2 倍となる 206 億円を確保しています。
- また、公債費(借金)についても、過去の大型建設事業に係る返済がある程度終了しており、未来への投資として、各種の大型建設事業を実施しても、過去のピークの 6 割程度で推移すると見込んでいます。これらの状況から、今後も健全財政との両立を図りながら、交流拠点施設を整備することは可能であると考えています。

Q 九州内でも新しい MICE 施設が建設されている中、競争に勝てるのか。

- 例えば、福岡では、規模が大きい会議場や展示施設などが集積し、大きな会議やイベントなどが開催されていますが、長崎では、福岡ほど大きな催事は開催できないため、中規模の学会や大会などがターゲットになると考えています。
- その一方、長崎の交流拠点施設は、長崎駅に直結するアクセスの良さ、高級ホテルの併設、周辺の飲食店や商業施設の充実といった、強みに加え、観光資源や平和都市としての知名度、医学などの長崎の個性や強みを活かし、福岡をはじめとした九州内の都市とは異なる魅力を持った都市として、差別化を図ることができると考えています。
- また、MICE の誘致や運営については、実績が豊富な会議運営の専門事業者がノウハウやアイデアを最大限に発揮し、独立採算で事業を行います。加えて、地元の経済界や大学、行政などが連携し、長崎ならではの地域資源を活かした誘致や新規創出、受入などの取組みを事業者と一体となって進めることで、多くの来訪客を呼び込むことができると考えています。

Q 人口減少に歯止めをかけるためには、市民の暮らしやすさを優先した施策に取り組むべきではないか

- 市民の暮らしやすさのための取組みと経済活性化のための取組みは、両方とも大事な取組みであると考えています。長崎市では少子高齢化が進む中、子育て支援や高齢者支援などの行政サービスの充実に努めてきており、その歩みを止めるものではありません。
- 一方で、定住につながる若年層の雇用や所得を増加させるための取組みも重要であり、そのためには長崎市の経済を強くすることが不可欠です。
- 交流拠点施設ができることで今まで以上に多くの人々が長崎を訪れ、宿泊施設に泊まったり、交通機関を使ったり、食事をしたりすることで、消費が増えることが期待でき、結果として税収が増え、行政サービスに使える財源を生み出すことができるようになります。
- 施設をつくる費用は小さいものではありませんが、行政サービスの充実に努めながら、都市に活力がある今だからこそ、交流拠点施設という長崎市の未来のための投資も行っていくことが都市の発展には必要だと考えています。